

バストス週報

第1045号
昭和四十五年
五月11日
発行
Director
Koiti Mori
Redator
Shion Oda
Rua Pres.
Vargas 188
C. Postal. 112
Fone 40
BASTOS
C. P.
Anual
N. Cr. #.
18.00
Adian.

霹靂 19

農人の事業人

去る五月一日バストス草分会の有志数名が畑中邸へ集まり、四十年前の入植当時の思い出話をした。此の企画をしたのは、バストス開植四十周年記念写真帳編纂者宮崎北照君が目で見える写真帳の中へ多少文章も入れておきたい気持ちから立案したものである。

本来、数氏に執筆を依頼すべきであったが、お互いに忙しい人はかりで、中々原稿が集らないので、是非なく人に集つてもうって、録音機を中心にして、司会者の阿部新藏さんがテーマを出し、その題に關心のある人が発言する……という方式で、勝手なことをしゃべった。そういう雑談式の中で、吉永宗義暗殺事件の年が、昭和五年ではなく、昭和六年だったり、リオド・ペインシエの架橋の年が一年くいちがたりしていることがわかったので、いずれ次の機会に改められるだろう。

草分入植者というと、勿論初年度入植者のことだが、昭和四年六月十五日バストス着以前にすでにバストスに入居して、新移住者を迎えた人達もあり、それらの入植者も含めて初年度は六十七家族に上った。その家族数にも、話し合っている内に誤りのあることが発見された。

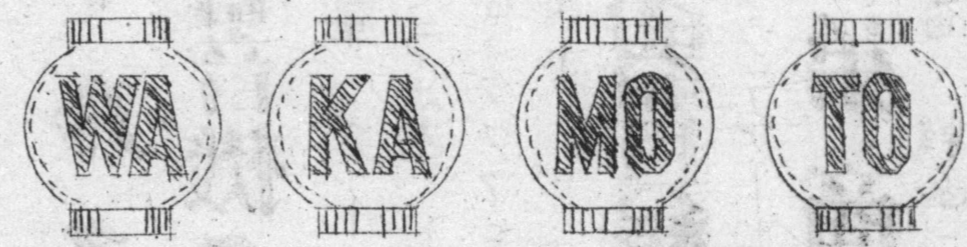
何でも最初の入植者、和歌山、広島、岡山が多数を占めていたが、和歌山、鹿児島県出身の中にはかなり猛者がいて、サツペーが生えてどうにもならん、事務所所にとなりこむ者、附近を煽動してまわって農争をかえり見ない者、著にも持たもかからぬ手合も多かった。農業移住者でありながら、政治ゴロだか、事業人だかわからぬような新移住者もまじっていたようだ。

そういう荒くれ男たちは、出身県から帰国命令が来たり、自分から移住地を去ったり、強制退放されたり、次第に移住地もおだやかに変わったが、三年目ぐらい道は何かと物情騒然たるものがあつた。

草分移住者がクロリア1、2区及び旧カスカッタ、プログレッソへ納まってから、次年度の日本からの入植者が確定せぬので、現地事務所では、仕事の方針が立たず、山伐りは了つたが、予定の入植者

錠剤 わかもと

胃腸と栄養
衰弱の回復
超力酵素配合
カンの予防特効薬
健康と永生に
総合V.B酵素栄養剤
わかもとの常用を



寒さに向ってお肌の
手入れに
わかクリームと
わかピツケン
御進物用にはわか化粧品
が最もよろこばれます。

わかもと製薬株式会社 わか美容化学研究所

が数に達するものやう見通しが立たず、遂に畑中支配人の英断で、在伯邦人の入植歓迎に踏み切つた。……これらの話は水野昌之氏のバストス二十五五年史に述べてあるが、その当時の人々の口から側面談をきくと、又ひとしおの感慨と興味を催すものである。

草分組の柔原久次郎氏の話を農人の一例として引用すると、例のボンカンはその果樹の苗木と共に小箱に仮植され、通々海を超えてサントスへ上陸したが、税関にひっかかり、苦心惨怛手まね足まね、二カ所で金二十ミル奮発して、ヤツと汽車へ積みこんでバストス道持込んだが、収容所生活が長く、いよいよグロリアI区自己所有地に定植した時は、ボンカンは一本しか生きていず、それも一夜のうちにはサウーバにやられるといつた痛恨事にあうのだが、何分農法の要領が悪くて困つた話などは、初期移住者の誰も経験する話ではあるが、えらいところえらいところ、驚きは深かつたようだ。

サントスからソロカバナ線にのって、クワター駅につくまでに三日を要したことも、今からみると、ほんとうに半世紀前の想出である。普通に走っておれば三日もかかる筈はないが、ところどころで停車が長かく、アシスの辺では六時間もとまっていた。腹はへる……収容所でもうったパンは噛ったが、サラメは臭くって窓外へなげる人が多かった。

誰やらの家族が金を持ち出し、駅前の店から白米を買い、しール腸の炊事の足らしき匙で一釜炊いて握り飯にして子供に食べさせた。次に大人用の一釜を火にかけた頃、汽車発車のしらせ、大いそぎで半煮の釜を車内に抱えこんで大笑いとなった話、あれは前田近一郎さんの炊事道具だったかね……と、遠い昔をなつかしむ眼。

過ぎ去った四十年は夢の間であつたが、一つ一つの苦勞や快心は、次々と想出の玉となつてころがり出てくるようである。植原さん一家も第一回入植者として、クワター駅についたのである。クワター駅前の日本旅館で一夜をあかしたが、畑中しゆ夫人なども新来者を迎えて白米の飯を炊き、味噌汁と塩漬の鰯やつけ物を出してもてなしたが、そのうまかつたことが四十年後の筆頭である。

「ねあ典さん、あの時は御世ごよになりましたなあ」と、植原さんは毎週のように遊びに来てゐる。畑中夫人に、今更のようには御礼をいう。いう方も聞く方も、しみじみとした味である。その頃、夕駅には五家族の日本人がいた。

吉田典三吉さんは、アバレー方面で棉作りのよると、マタラーゾである。金持という意味もいくらか含んでゐるが、ありとあらゆる仕事に手を出してゐるといふ意味の方が強い。

吉田さんは、アバレー方面で棉作りの外か、甘蔗、その外農事に通じ、その経験を生かして、バスターズで再現したものは、トローラ運搬、カッエー精選、絹織物、ピンガ製造、レンガ工場工場と、バスターズの材料を用いて農業が副業か卒業が本業かわからぬ程の活躍家であつた。

「何しろ分譲地へは入植したものの、外の人とちがつて無一文だから、カッエーを植えて、その収穫を待つてゐるようなのんきな身分じゃないんです。どうして毎日銭を稼がねばやつていけない。そこで考えたのがセラリアのトローラ切りです。家内と二人でトランサドルを押しつたり引いたりするのだが、家内は妊娠して、引いて握るだけだがつかえるんですよ。それで切口が曲つてしまふんだな(笑)」

Eleetro Radio Oriente

ステレオ電気蓄音機各種
テレビヅール各種

ラジオ・ピアノ・金庫・タイプライタ
扇風機(ヴィンチラドル)ラジオ・トランススタ
冷蔵庫(ジュラテイラ) ヒンタクマキナ
その他何でもあります。

各種家庭用電気器具類一切

カルサ市・ルア・エイトロ・ペンテアード 一―一 番
本店 八卷兄弟商会

カルサ電話七三番・郵函二七九番
御注文はバスターズ市ドツキデカシマス街角

代理人 宇佐美宗一

バスターズ電話店一四六番
宅一二五番

クロアI区方面の目星しいトーラは大底吉田さんが切り、セウリアのトーラ車に引き渡した。トーラ車は道なき山道をはいり込むので故障が多く、畑中支配人の智恵で牛車を使うことになり、吉田氏は出身地のアパレーへ行つて、トーラ用の牛車を作らせ、角の長い牛を六頭購入し、その上、カロセイロを一人雇つてバストスへつれて来た。これがバストスに於ける牛車の濫觴であらう。

これをしようと、道がなかつた。山の奥だろつと、かまらず這つて行けるので、大いに成績をあげた。

吉田さんは、直営珈琲園の半分以上プランタを引き受けたし、その後その珈琲の収穫後は、グロリア区の上田さんとコンバでカフエマキナを経営し、数年つづけた。

その外、自分の土地にカンナを植え、ピンガ製造もやつたし、土地のブレイジヨに粘土のあることが判ると、忽ちレンガ製造をはじめた。又、村井さんという人の技術と取り組んで、絹織物(羽二重)をはじめ、製品羽二重を聖市のマツピンに売り込んだことがあり、製品が出来ないといつて小言をいわれたこともあったという。

その哀側では、二三人、人を使つてしんがを作るといふ忙しさである。口も八丁、手も八丁という諺はあるが、バストスの農人にして、事業人として独歩の城廓を築いた人である。氏の特徴は色々な事業に手を染めたが、決して土地から遊離したことのないことであつた。

宮崎北眠君はバストス開植四十周年史を写真帳で出すことにしたが、何しろ大仕事で、今やつと文章の編集を終らうとしてゐる処、こうした事業は労多くして中々はかどらぬもの、完成へ二年越してある。

旅人木

旅人の木に倚り立てば秋の風 信山
水鳥や爰れは寄り 照れば散り
菩提樹にかかりてスレ椰子落葉

おしらせ

五月十八日(土)午後七時半

講師 西山正一先生

オリニョス市・ソロカバナ第二連合会
教化支部長

生長の家講演会

どなたも有益なお話を御聴きのがしのなじように、御案内いたします。

場所

生長の家バストス教会

谷口雅春先生「人生読本」より

使う筋肉は強靱となり

使う精神は若さを増す

主催 生長の家バストス誌友会

マリリア放送より 第一回

わかりやすい佛教の話

瀬 辺 澍

皆さん、今日は、しばらく休んでおりましたラジオ放送を、又続けることになりましたので、御清聴をお願いいたします。さて、明四月八日は、私たち佛教の教主釈尊のお生れになつたおめでたい日です。今日は、そのお話しを申し上げたいと思ひます。

皆さんもご承知のように、お釈迦さまは、今から二千五六百年前に、印度のマガタ国の浄飯王を父とし、お妃のマヤ夫人を母としてお生れになつた方でありま

す。お経の伝えるところによりますと、或満月の夜、お妃がベランダで月を見ながら、うとうととしておられると、夢に、白象がお妃のお腹の中に入った夢を御覧になつて、その時御懐胎になつたと云つています。そして、十カ月の月満ちた時、その頃の印度の習慣に従つてお生れになつた実家に帰つてお産をせられることとなり、この八日の朝、沢山の女官を従

え、お城を出てルンビニという花園まで来た時、マヤ夫人はにわかには産気づいて、この花園の中にいこわれて、お産をせられたのであります。皆さんが花まつりにおまいりになりますと、花の御堂が作られておりますのは、このことを現わしているのであります。

さて、花園でお生れになった赤ちやんは、すっくと立ち上って、一步、二歩三歩と七歩、歩いて立ち止ったかと思うと、大地がもり上って小山となった。その小山の上に立った赤ちやんは、右手を上をさし、左手を下をさして「天上天下唯我独尊」と申された。その時、雨をつかさどる天の竜王が、佛が地上に生れられたことをお祝いして、甘露の法雨を降りさそぎましたが、この赤ちんこそ後に、世界の救済主となられた。お釈迦さまであります。

お釈迦さまのご誕生の模様は、今申しましたように伝えられておりますが、その話の通り受けとりましたらば、それは一片のお話しでしかありませんが、これには深い深い意義がつけまわされているのであります。その意味を諒解すること、軀ては仏教を諒解することになるのであります。

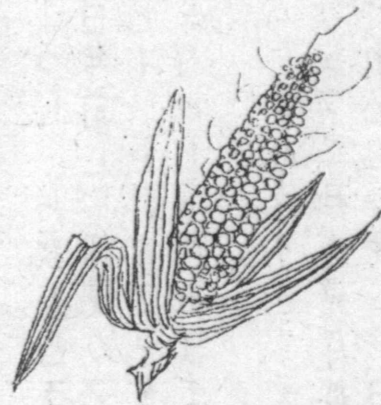
今回の放送は、その「花まつり」の日から始めることになりましたので、これから毎週火曜日のお話は、これを中心として、すすめたいと存じますから、御清聴をお願いいたします。

(一九七〇、四、ヒマリリア放送) 第二回。

先週は、お釈迦さまのお生まれになられた時の模様を、経典の伝える所に従って申し上げましたが、元来仏教の経典というものは、印度で作られたものであるためか、文学的に表現を巧みにし、その中に、瞑想的、神秘的なものを包んでおりましたために、文章の辞句からだけでは諒解しかねるものがあるのであります。その辞句の通りに見ますならば、一般の宗教々祖にまつわりがちな奇蹟にしかすぎず、現代の知識人からは、断話としお納得できないものであります。それならば、仏教の世界はどのような解釈せられてゐるか？今日は、それをお話しして見たいと存じます。

さて、仏教という教えは、主として人間の心を中心にする教えであります。

Debulhadeira de Milho "PENHA"
Debulha-se Milho
Procurarar Sr. EDSON CLAUDIO
Rua 10 de Nvembro 1084 Fone 259
Ou deixar rcado á Rua Presidente Vargas 312 Fone 200-
/ MORISHIGUE



デブリア
ニリア

脱粒の期となりました。迅速丁寧におやすくいいたします。

御用命は、
デイスデンベンブロ街一〇八四
エズン・クワウジオ
電話二五九
又は
ルアブ・ヴァルガス三一三
森重法律事務所
電話二〇〇。

その心の動き方、感情というものは複雑なものであります。その複雑なものを一般の人々にわかり易く説明するため、これを仮りに六つに分けて説明します。その六つに分けた説明も、今ならば、心理学の言葉でも使つて説明せられるでしょうが、三千年も昔の印度の名もない字もない人々に説明するのであります。その一つ一つの動きだけが、固ったうらば、こういう世界が作られるであろうというところから、この娑婆の世界になさうえて、六つの世界、六つの道というもの、ものを仮りに設けて説明をして来たのであります。

その六つの世界とは何か、人間の感情は、時によると瞋恚、即ち怒りを発します。その怒りだけを取り出して、若し、怒りだけの世界があるならば、それを表わして、これを地獄と申します。次に人間は、欲というものを持っております。その欲も生きるための欲だけならばまだしも、それ以上の欲の心を起します。それを貪欲という感情だけを取り出して、その貪欲でできている世界が仮りにあると仮りに定めて、これを餓鬼の世界と呼びました。第三に人間の感情というものは、世界の動いて行く法則に逆つて、自分の都合のよいように生きて行きたいという愚かな心を起し勝てありますが、そ

の愚かな感情の固まつた世界があるならば、それは畜生の世界と名付けられると申します。第四に、人間は、争いを好むものであります。そして争う時は、平素はやさしい顔付きの者であっても、その時は人が変わったかと思うほど、きびしい顔になります。

この姿を修羅と申しますが、その争いの感情を取り出して世界を作ったならば、それは修羅の世界であると表現します。そして、第五は、感情が、或時には、地獄のようであり、或時は飢鬼であり、又畜生、修羅のように複雑なものの行き来する、所謂人間の世界を、第六は、いつも喜びの感情に満ち満ちているならば、それは天上の世界と名付けられるといふように、六つの世界というものを設けたのであります。

お釈迦さまが生れ落ちるや七歩あるかれたといふことは、この六つの世界を六歩とし、これをこえた、感情の起伏のない、仏とされる方であつたといふことを表わしているのであります。

(一九七〇、四、一四(リリア放送))

御 礼

私共父子、去る三月二十八日午前十時半頃コンビニにてアルト区より市街地へ向う途中、鴨原氏のカーブミラー附近にて、トラトラと衝突事故を起し、人事不省に陥りました。附近の方々の適切なる処置により直ちにバストス病院へ入院加療を受け、大事に到らず、四、五日で退院し自宅に於て療養し次第に回復致しまして、忤も頭部及び脚部を負傷しましたが、私同様一カ月余の治療にて全快しました。その当時皆様より御親切な御見舞を受け誠にありがとうございました。一々御礼に伺うべきですが、失礼乍ら取敢ず紙上を以て御礼申述べます。

一九七〇年五月五日

山 芝 一 一

知 友 各 位

(御姓名の儀省略いたしました。)

海外に光を掲げし人 9

前田常左衛門伝 9

船内では知り合もでき、彼は特技の散髪をして、船客に喜ばれた。妻は、生後一年目の利之を抱え、洗濯に大わらわであつた。淡水が少いために、真水の使用は極度に制限されていたが、妻は毎朝船客の一人一人に洗顔した後の水を貰い受け、これをおしめの洗濯に利用した。こうして目的地、ブラジルのサントス港へ入港し、上陸したのは、五十六日目の九月一日であつた。下船準備に船内は、俄かに騒々しくなつた。

「元気でね」「達者でなア」と、明日の別れを惜んで、涙まじりの高聲で話す女同志のやりとりを聞きながら、舷側に佇んでいた。油が浮き、蜜柑の皮などの漂う海面、生温い潮風の中にうごめく、喧燥を包んだ港町の低い屋並み、峻しく肩にせまるくろろずんだ海岸山脈などの珍らしい景色が、あたかも、明日からの未知の運命を暗示するかのようになつた。

自由の天地に再び訪れた南米大陸、腕一本で拓こうとする人生の新しい首途に向つて挑戦するように、腕を組んで立つ彼の背後から、

「あなた、利之の様子が変わります。」「妻のあいさんが、二オになつたばかりの次男利之ちゃんを抱えて駆けよつてきた。見れば、あいさんの腕の中に利之ちゃんがあつたりとなつてゐる。額に掌を当ててみると、やけるような熱さだ。明日の下船をひかえこの高熱では……彼の脳裏には、突如、出国前神戸で目の検査をうけたときの、厳しい検疫官の白服姿が浮んだ。

もしも下船が許されなかつたら……妻の手から利之を引き取り、しっかと吾子を抱いた彼の顔は、不安に青ざめた。取敢えず船医にと、妻と二人で医療室に駆け込んだ。手当が施された。船医も事務長もみな親切な、よい人ばかりであつた。行届いた処置で危機は去り、その日の午後の検疫は無事にすんだ。事情を知つた同船の人々は、

「よかつたね前田さん」と、わがことのように喜んでくれた。「お蔭様で……」と、夫人は、代るがわる頭を下げた。

サントスから汽車でサンパウロの移民収容所に入り、そこで、海外興業株式会社の明穂梅吉という人から、配耕指令をうけた。配耕先は、モシアナ線フランク駅、サンタ・テレザ耕地。彼らはその

耕地の、咖啡コロノ（咖啡園の契約労働者）として働くことになったのである。早速地図を拡げて、その辺は海拔七百米の高原地帯であることを確かめ、健康地帯に遠くないと、安心した。彼が、この様に配耕先の自然条件に気をつかったのは、ペルー時代の熱帯病、とくにマラリアに対する恐怖心があったからである。薪を焚いて走るガタガタの汽車に一日夜も揺られて、彼ら親子は、ようやくフランチカ駅についた。サンタ・テレザ農場のカフェーコロノとして入植したのは、九月七日であった。就働契約は二カ年である。当時カフチの値段は非常に高く、生産者は近年稀な好景気で、耕地は活況を呈していた。

カフチ園の慣習として、コロノの稼働能力の評価は、実際にインシマダ（除草機）を握って働ける年齢の男子（二十歳から五十歳まで）の数によって、インシマダ何本というふうに分けられるのである。彼の家族は六人であったが、実際働けるものは彼と徳一と二人、すなわちインシマダ二本で、稼働能力は極めて低いと評価されていたため、割り当てられたカフチの本数は四、二〇〇本で、手入れ賃は一千本につき年間三五〇ケルペイロ（当時の日本金にして約九千円）が支払われ、なお、これとは別に雑作

地（無料で耕作を許される土地）として半アルケール（一アルケールは二町四反）が与えられた。農場には、伊藤という日本人の監督が振りを利かしていた。彼らは旅の疲れをいやす間もなく、入植した翌日から、除草仕事を始めなければならなかった。割当てられたカフチ四二〇〇本で、その植付面積は二アルケールのコロノとして、ブラシル農業の第一歩を踏み出したものである。朝六時から夕方六時までの、十二時間労働である。毎朝五時半に、シノ（鐘）が鳴ると、コロニア（コロノが集団してしている地）の家々は活気づき、コロノ達は、それぞれインシマダをかついで、農場の大門を通って耕地に向う。そのとき監督が、門のところまで、家族と人数を調べる。もし、就働しない家族、あるいは規定の人数に欠員があると、監督は早速やって来て、就働しない原因を訊ねる。病氣だというと、すぐお抱の医師をつれて来て診察させる。偽の病氣はすぐばれる。こんな具合であったからサボタージュはできなかつた。

バストスへ初の

日系テレガイド

五月下旬（二十五日ごろか）当バストスへ新警察署長が赴任されることになっているが、此の署長はバストス出身というから畏敬の外に親しみを感ずる。ウニオン一区、木口正功氏の長男、木口明則（三十二歳）氏というから、顔馴染の方も多いことだろう。氏は、サンパウロ法大卒業の法学士、弁護士。長らくサンパウロ警察の敏腕刑事として知られていたが、昨年警察署長の試験に合格し、今回が初赴任とのことである。因みに正規の警察署長は全伯に六人しかいない日系人の一人として、数少い至宝である。資性温厚、法律に明るく、いやくも取締りをなおざりにすることなく、職務に忠実でありたいと、抱負を洩らしている由である。

御案内

来ル五月三十一日

灌仏法要

午前十時

同朋青少年発会式

鶏供養法要

午後二時

講演会・講師

新宮良範先生

奉讃演芸会

開幕六時半

参加ブルテンテ・オクルス・マリリア

地元仏教青少年婦人会、他協力者御同
売店 中学生出仕

以上の通り執行します。どうぞ皆様御参詣して御
観覧願います。

バストス南米本願寺役員会

大阪万博だより

小茂田さんの第二信

バスト入の皆さん、御元氣ですか、私も元氣で旅行を続けて居ります。次に万博を覗いた後、感じた伏申上げます。面積一千メートル×一千三百メートルの広さ、元竹林で狐、狸の棲家であつたこと、地形の悪い処を行き届いた施設の完備、入場料は八百円、高いそうです。が、すべての乗物料は無料、入口は北側を中央口、東西南口と、四方から這入れる。六月の入場者九百万人、一日平均千八百九十九人。先ずモノレールに乗つて場内を一周すると、大体内容が眺められる。混んで居つても十五分位でのれる。一番人気のあるのが、ソ連、アメリカ、次いで松下、三菱の未来館。これらは一時間半から、三間の間列に手押しなければ這入れないので、私はまだ見ていません。

他の十三四国に這入つて見ましたが、何ら参考となる程のものもなく、期待に反し、失望でした。インドは出品量も多く、仏教の国として、その伝統が偲ばれました。

スイスは王座を日本に譲り、儀礼的出品と、淋しく眺めました。チエコには一般同情の目を寄せ、特に入口に白い台帳が備えてあり、名代の一言と云つた、親愛なるチエコ国民の勇気を讃う、など書いてありました。

ブラジル館は、カフェは吞ませてくれますが、内容が御粗末、日本庭園は特に外人客に観て貰うべく全力を尽したのに、外人の客は僅に四%とのことです。場所のわるいのが大きな原因、織姫館は全く判断に苦しむ、皆目意味が解りません。専門の織物屋さんにきいても苦笑して何とも教えてくれませんが、そして、解らないと答えました。

建物には技術的素晴らしいものもあります。殆ど全部が団体で、薊いのハンテン、帽子、タスキ、二十人から百人の団です。大人の迷子が毎日三、四百人も出て、呼び出しで賑つて居ります。各国のレストラントと百八十個所の弁当屋、うどん屋は満員。ブラジルの新聞で報じられた混雑、乗物の洪水は全くありません。

宿泊も観光ホテルを除けば宿る心配無用、私はまだ一流館をみていないので、改めて見直す心算です。私のみた範囲では、各国とも大同小異、世界は一つ、人類は兄弟と結びたい万博精神の進歩と調和の成功を祈り御報告申し上げます。四月十九日 故郷にて小茂田光明

仙人掌社五月例会作品

近郊といえど山峡シマカチロン 翁橋
訪日切符贈れば母泣く母の日に 耕雨
その中に紅一点の秋 秋宿
母の日々青絲む母を喜い合つ 真水
鹿子句碑の湖畔舞わうシマカチロン すわ
バスで行くミナス高原秋高し 丸女
秋扇その翳らの世詩ならん 糸音
句碑を訪う嶺にシマカチロン三羽咲き 仙舟
母の日に二児を抱えて母祝う 南嶺

句会御案内

期日 六月七日(日)夜七時
兼題 秋深し・みかん・
外 本誌課題句
会場 北 眠 居
同好者各位、御出かけ下さい。

御 礼

去る四月十九日、当少年野球部が、オクルー入球場に練習試合に参りました時、突然予定の車に手ちがいを生じ困惑の折柄左の方々の御好意により、車の都合をお計らい下さいまして、無事試合を行うことができました。誠に有難うございました。

五月六日

バストス少年野球部

- 柳浦 龍太郎 様
- 郷原 章雄 様
- 岡本 一二 様
- 岡田 富男 様

御 礼

金 一 封 也

右、貴長男と同意にあたり、懇志納められ、厚く御礼申し上げます。

バストス南米本願寺

戸来 金太郎 様

日 語 校 おしらせ

十三歳以下の生徒は生長の家会館へおいで下さい。
音楽教室は無料ですから、第四日曜にどなたもおいで下さい。

狂犬病とはどんな病気がか

狂犬病は一口にいえば犬が気狂いになる恐しい病気で、この恐しい狂犬にかまれますと、人間はもちろん、馬でも、羊でも、ねこでも、ねずみでも、鶏でもみんな狂犬病にかかってしまいます。この病気の一番恐ろしいのは、一度症状がでると絶対に助からないということ、残念ながら現在の進んだ医学でもなおすことができません。

人が狂犬病にかかった場合、どんなに苦しんで暴れていても、助けることは、もちろんできませんし、近寄ることさえ用心しなければなりません。

こんな残酷な病気はほかにありません。ではこの恐しい狂犬病の病毒とはどんなものでしょうか。狂犬病の病毒は、狂犬病にかかった犬の脳、脊髄、神経、唾液等の中に沢山あります。そしてこの病毒は、専門語で「浮過性毒毒(ベイルス)」といつて、細菌よりずっと小さいもので、素焼のせとものの中に入れて圧力をかけて置きますと、細菌は外へ抜け出ませんが、狂犬病の病毒はみんな外へ抜け出てしまいます。

こんな小さいものですから、特別大きくして見られる電子顕微鏡以外、どんなよい顕微鏡でも見る事ができません。②狂犬病にかかった犬はどんな症状が起るか？

犬によつて多少の違いはありますが、大体狂犬病にかかった犬に咬まれると、二週間から六週間くらいで、幼犬では三日目くらいのもあります。今までと変わった様子になります。急に元気がなくなり、食欲が変り易く、食べ物を食べなくなり、物蔭にもぐり込んでしまつたり、むやみに吠えついたりします。しばらくすると、ちよつと体にさわつても背中を逆立てて怒つたり、咬みついたりするようになり、もちろん家の人もよその人も見境いはありません。普通、犬は飼主にはかみつかないものですが、もしこんな症状の時に飼主にかみついたら、狂犬の疑いが濃厚です。そのうちに紙屑や、木片、竹屑、土、石ころ、馬糞など何でも食べてしまうようになります。この時期を「憂鬱期」といつて半日から二日くらい続きます。その後だんだん目つきが悪く怒つたような顔付になり、声はかれ、夢中で方々を駆けまわり、人や動物、樹木や、火のついたものでも何でもかみつき、全く手のつけようもない気遣いになつてしまいます。この時期を「狂躁期」といつて二日から四日くらい続きます。

この時期が一番恐ろしいときで、被害者も沢山出ます。時には一頭の犬に四、五人も五十人もかまれ、一日に八十キロも走り廻ることがあり、この時期の唾液は最も有毒なものです。そのうちに体はやせ細り、走り廻る元気がなくなり、腰か抜けてよろよろとなり、遂に呼吸麻痺を起して死んでしまいます。この時期を「麻痺期」といつて一日から二日くらいといつていきます。以上のように発症してから死ぬまでの期間は大体五日から八日くらいです。

狂犬にかまれた人は どんな症状が起るか

この病気は狂犬病をもつた動物に咬まれた傷口から、唾液にはいつた病毒により伝染します。狂犬にかまれると傷口が治つても病毒は体内に残り神経を伝い脳に達して発痛します。他の病気と異り潜伏期間が長く、普通五日くらいから三週間、又一年以上潜伏することもあります。かみとたび発痛すると、僅か五日くらいで必ず死んでしまいます。以下次号へ

アマルゴトン 18

虹の美しさ

まだ乱雲が走っている。雨は時々刷くように遠景をぼかす。暮れようとする空がさつと明るくなつたかと思つると、中天高く大虹が、重なり合うようにかかっている。思わず声を上げて、すばらしいと叫ぶほどの美しさ。ほうほうと、うれいを含んだような色合い、七色というが、きわだつて四色ぐらゐに見える。『あすなる合唱団』の公演を去る(五月三日、日曜夜)バストス総合会館で聞く機会を持つたが、もし、四部合唱の声の芸術を色彩にたとえたら、ほんとに虹の美しさにたとえることができよう。

宗像基氏の指揮によつて、二十五名の団員が、全く化合した液体のように、四つの色となつて、濃くなり淡くなり、急流になり、溪澗となつて、流れるようであり、洋るようでもあり、うつとり夢の世界に私を引つ張つてゆく。虹が神の芸術だとすれば、合唱は、人の和の作り出す芸術であろう。

指揮者宗像氏の両手の指から発散するエレキが、声楽家の一人一人から声のエキスを吸い出すような不思議な作用をする。私は過去に於てオーケストラなら多少聞いたことがあるが、よい音楽をきく

会に恵まれなかつた。日本に居れば、色々の機会にミューシカルがきかれるだろうが、ブラッセルも、こう奥地へ入つてしまつては、此後とても度々機会があろうとも思われぬ。

数々の合唱中、印象にのこつたのは、ソーラン節、荒城の月、などの変曲のおもしろさであつた。俗曲や唱歌でも変曲による妙味を充分に知ることが出来た。入植祭の野外舞台で二度ばかり合唱団を聞いたが、ああいう声の散つてしまふところ、声楽はムリだ……ということをして、こんど会館の舞台で「あすなろ」をきいて、つくづく感じたことである。

入植祭その他の音楽会で、いわゆる「のどじまん」は、しよっちうきくが、独唱もわるくはないが、四部合唱のもつ深さと、柔らぎには足もとにも及ばない。多くのバステンセも、私同様「合唱」をきく機会が少いので、興味を持つて来なで到つていないようだが「魂の糧」を求めて、次の機会には試聴されることを、おすすめする。

同じニコントならシネマの方がいいという声もあつたそうだが、心の浄化、心の憩息のため、ということも、人生に於ける薬だと思ふことも必要だ。シネマは既に「娯楽」である。音楽、その他の芸術は、単なる娯楽ではない筈だ。「虹の眼」しさにひかれる「すなお」は誰しももある。美しさにひかれる心を大切にしたい。

バストスの男女青年たちも合唱団を発足させたようだが、気長く研究をして、大成していただきたい。糸音

霊輓車案市会通過

かつて本誌に霊輓車を設置したらといふ、植原老の希望をのせたことがある。葬儀のあるたびお棺をカミニオンにのせがたがたと荷物同様あの世送り、人生第一巻の終りとすませていくのが現在までの有様だが、バストスの実力からいって、ほとけ様を極楽へお送りするには、せめて霊輓車にしたいもの、と植原老最期の遺言に尽力するつもり。幸いなこと、これが市会の取上げることになり、去る四月の市議会で審議され通過した由である。いつ実物購入か、どの程度の車か、詳細は後報されるが、この朗報をきいた植原老自分ごとのように満足しているところ、今時棺一つでも一千コントもするといふ、この派手な競争をやめて、二三百コントのものにしたいという希望、後日改められた提言。

養鶏家の皆様へ御案内

来る五月十五日、第一製薬K.K.の薬学博士、傍士和彦氏が鶏の健康管理、養鶏技術について新らしい学理にもとづいた講演をされることになりました。ぜひ御出席されるよう御案内申しあげます。

場所 バストス日伯文化協会々館

日時 五月十五日(金) 午後八時より

シネマ・スライド

C.R.D. コリーザ予防・日本における新薬スルファモノメトキシシン及びビルスファジメトキシシン

第一製薬株式会社

ブラッセル伊藤忠商事株式会社主催

バストス文協産業部後援

おしらせ

先日週報誌上にて御知らせしました元ツツパン・ブラッセル銀行支店長、エルメス・ゴーマス、バルホーザ氏を招待し、シユラスコする日が決定しましたので、おしらせ致します。

期日 一九七〇年六月六日(土曜日)

場所 レカント、ナウチコ、パトリ

時間 午前十一時

会費 「記念品共」十五新クルゼイロス

御婦人子供は、各五新クルゼイロス

御参加希望の方は、各所居の組合か又は左の発起人の方へ御申込み下さい。

申込み切りは、五月二十七日迄

発起人 西 徹・小林 平行

山中安彦・崎田春一

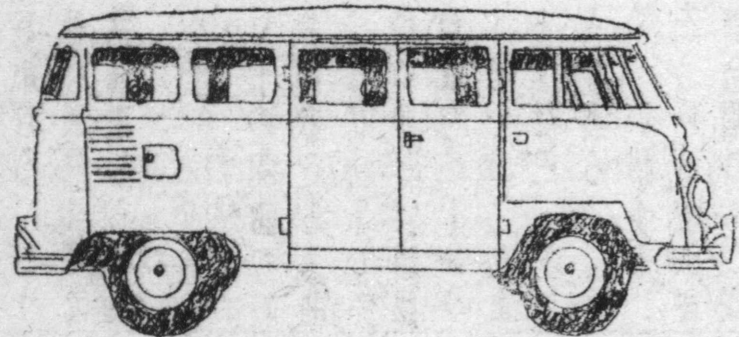
豊島重幸・水馬昭二

森下義春・松森 正

CRUZAUTO

Osvaldo Cruz Automóveis LTDA.

Concerto em oficina terão desconto de 20% sobre mão de obra Aquisições das peças terão descontos de 10%.



クルザウト自動車有限公司

オズワルド クルース市 C.Postal 156

修理費は 20% の割引

ペッサは 10% の割引

世界の高級車ヴォクスワーゲン

中古車を引取り新車と交換

銀行融資販売の御世話致します

Aviso de Cine Bastos

2 本 立

五月十二日(火)十三日(水)両夜とも八時 リーブル
東宝総 天然色
その人は昔 舟木一夫 原作脚本監督 松山善三
幸せは、白い馬に乗って来た。可愛い二人の恋は青い海岸に定まらう、都会の空にとんでいった。
ササさんと子ロソおぼさん 江利チエミ、白川由美、清川虹子
小泉博、高島忠雄、藤原釜足
把腹絶倒、チエミと、三益愛子の初顔合せ、名コンビで贈る笑いの大旋風ノ、

五月十五日(金)八時 十六日(土)九時半
原作、子母沢寛 監督 三隅研次
座頭市血煙り街道 勝新太郎 朝立雪路 小沢栄太郎
大映総 天然色
高回美和 中尾ミエ 近衛十四郎
敵は剣豪素浪人、挑む相手が強まれば、より強えわたる仕込杖、みなし虎片手に斬りまくる市ノ、

特別提供

五月十七日(日)九時半・十八日(月)八時 十四才
世界に誇る川端文学の映画化、格調高い華麗な名作ノ、
ノーベル賞記念作品、中村登監督・脚本 広瀬 襄・原作 川端康成
松竹総 大型 天然色
日も月も 製作 新村博
岩下志麻 大空真弓 笠智衆
久我美子 香山美子 森雅文

五月十九日(火)二十日(水)両夜とも八時 リーブル
燃ゆる紅葉に映えて女の愛が揺れ、激しくも又かそけきうつろいッ
ノーベル文学賞に輝く文豪川端康成の名作を得て、名匠中村登監督が、
世界に真価を問う文芸大作ノ、

五月十九日(火)二十日(水)両夜とも八時
東宝総 天然色
沈丁花 京マチ子 星由里子 仲代達矢 宝田明
司葉子 団令子 杉村春子 佐藤允

創二十周年記念、全女性待望、美しい四人姉妹の胸ときめく恋と結婚の夢、豪華十八スチで贈る超大作、
東宝総 天然色
ササさんの脱線奥様 江利チエミ 藤原釜足 清川虹子 マチマコ
雪村いずみ 宝田明 新珠三千代 浪花千栄子
監督 青柳信雄 早のみこみで失敗つづきの、オール脱線でお笑い旋風ノ、